

アシモフ『はだかの太陽』のあらすじ

takaidos

はだかの太陽

アシモフ。

ロボット・シリーズ③。

1957年発行。

『鋼鉄都市』の続編。

<目次>

- 1.発端の謎
- 2.旧友との再会
- 3.被害者
- 4.眺められた女
- 5.犯行をめぐる討論
- 6.くつがえった推理
- 7.無能な医者
- 8.宇宙人の蹉跎
- 9.出し抜かれたロボット
- 10.文化の成立ち
- 11.育種場
- 12.的外れ
- 13.ロボット学者
- 14.動機
- 15.地球人の肖像
- 16.直感
- 17.会議
- 18.解決

解説/関口苑生

<登場人物>

イライジャ・ベイリ:地球人。私服刑事。『鋼鉄都市』で宇宙人殺人事件をロボットのオリボーと一緒に解決した。

Rダニエル・オリボー:宇宙人オーロラ人の作った高性能人間型ロボット。

アルバート・ミニム:地球の司法次官。

ハン・ファストルフ:宇宙国家最強のオーロラ人の博士。

ハニス・グルアー:ソラリア人。国家安全保障責任者。

リケイン・デルマー:胎児技師。殺された。

グレディア・デルマー:リケインの妻。空間染色家。

アルティム・スール:ソラリア人の医師。

コーウィン・アトルビッシュ:ソラリア人。ハニス助手。国家安全保障責任者代理。

アンセルモ・クエモット:ソラリア人社会学者。

クロリッサ・カントロ:リケインの女助手。育種場に泊まり込んでいる。
ジョサン・リービッグ:ロボット工学博士。リケインと共同研究していた。未婚。

<背景>

鋼鉄都市の続き。

50の宇宙国家連合があり、地球も支配下に置いていた。

地球は80億人の人口を抱え、地下に住居(シティー)を移し、地表の農地や鉱山では陽電子ロボットが働いていた。

ロボットには「ロボット三原則」がプログラムされていた。

(人間の安全を守る、人間の命令を聞く、人間の安全と命令に背かない範囲で自身の安全を守る)

宇宙人(スパーサー)はかつて地球から宇宙に住み始めた地球人たちで、何百歳という寿命持ち、地球人たちが今も持つ各種の菌を恐れていた。

<あらすじ>

イライジャ・ベイリは司法次官アルバート・ミニムに呼び出されて、ニューヨークからワシントンに飛行機で来る。

ミニムはベイリにソラリアで宇宙人殺人事件があり、先方の指名により捜査に行くよう言われる。

宇宙国家群はかつて地球人が宇宙に出て、テクノロジーが上回り、今では80億の地球をも支配していた。

宇宙国家連合は50あり、全て足しても人口は地球の人口に満たなかったが高度にロボット化が進んでおり軍事力は強大で、国民は長寿命だった。

地球は人口過密、テクノロジーは未発達、寿命は短かった。

そのため反乱、鎮圧、反乱、鎮圧を繰り返していた。

ミニムはソラリアの状況を探ってくれと内密に命を下す。

ベイリは大型の宇宙船に乗り超小型陽子炉によるフォース・ジェット飛行とワープでソラリアに旅立つ。

ソラリアは外径9500マイル。内側にさらに2つの惑星を持つ二重構造だった。

人口は2万人に抑制され、一人当たり1万台ロボットに囲まれていた。

ベイリは車で移動中、ダニールに外が見たいというがダニールはソラリアの太陽の直射光は人体に良くないと判断し止めようとする。

しかし車の自動運転ロボットが命令を聞いて、ベイリは太陽を見たあと気を失う。

ベイリとダニールは今回の任務の間だけのために建てられた巨大な住宅に到着する。

任務終了後、そこは壊されて更地になるという。

三次元投影機で、グルアー捜査官と話をする。

容疑者はひとりしか可能性がないが、その男リケイン・デルマーも犯人でありえない、彼は死んだ、という。

とりあえず一晩寝て、リケイン・デルマーの妻グレディア・デルマーと連絡を取ることにした。

グレディアは映像に出て来たが、風呂上りでヌードだった。

夫は割り当てられた、という。

夫が殺された時の状況を訊くが、叫び声がして走り回り気が付いたら現場に辿り着いていた、遺体はロボットが掃除した、という。

警察が無いのでそうなったという。

ハニスと映像で話をする。

ハニスは食事中だった。

リケイン遺体のそばで誤作動を起こしていたロボットはすでに解体されていた彼はうまくオリボーをベイリのそばから移動させているうちに重要な事を話す。

リケインは人類全体に関わる陰謀について調査中だったという。

ハニスは飲み物を飲むと急に苦しみ出し倒れる。

ベイリはハニスのそばに居るロボットたちに診断手当てと周囲の調査命ずる。

そしてグレディアにまた映像電話をかける。

一緒に食事をしながら、ハニスは毒を盛られた、と話すと、彼女は「では犯人は自分ではない。ハニスは遠くにいる」というが、ベイリは認めない。

彼女は食事用ナイフを掴みしめて映像通信は中止となる。

次にハニスの代わりに国家安全保障責任者代行コーウィンと話す。

彼は地球人は帰れ、というが、ベイリは「この星が他の惑星に影響する何か政治的な動きがある事を知っている。必要に応じてソラリア人を取り調べる」と脅す。

オリボーはソラリア人たちに直接会うのは危険だとベイリを止める。

ベイリはオリボーがロボットである事を他の三体の給仕ロボットに教え、部屋に監禁するよう指示し、自身はソラリアの街に捜査乗り出すのだった。

最初にソラリア最高の社会学者クエモットを訪ねる。

クエモットはソラリアはすぐ近くのネクソンの人口が200万人の人口過剰になって以来、別荘地として始まり、のち独立したという。

今は1万平方マイルの土地に住む人も珍しくない。

ベイリは、社会学上の関係式・テラミン関数(対人迷惑総量と付与特権を相関させる導関数)を知っているという。

人口抑制を考えて、ソラリアの人口ピラミッドは古代スパルタのようになっている。

支配層の自由民と奴隷であるヘロットの比は1:20。

そしてその20当たる部分もソラリアではロボットが賄っている。

殺されたリケインはいっしょにチェスもやるいい知り合いだった。

彼は胎児技師を務めていて、ひとり助手がいた。

奥さんのグレディアは空間染色家である。

数で圧倒的に優位な他の宇宙国家に対する、ソラリアの兵器は「人殺しをしない陽電子ロボット」であるという。

クエモット博士の理論によれば、ロボットは人間の仕事を奪い、数が増えるとやがて人口減少に転ずる。ソラリアはその典型である。全ての人間が有閑階級になった。

次にベイリはリケインの女助手クロリッサに連絡を取る。
彼女はリケイン殺しの犯人は妻でありみんな知っているという。

クロリッサのいる育種場に行く。
そこでは妊娠1ヶ月になった胎児が保育器で育てられ、ある程度の子供に成長するまでロボットたちに育てられていた。
そして空き住居が出来ると彼らはそこに送られるのだった。
ソラリアでの結婚は遺伝子マッチングによって自動で決められていた。
クロリッサが嵌めている右指の指輪は、遺伝子を刻んだものだった。
ソラリア人はお互いに実際に近づくのを汚いことという意識があって、接触するほど近づくのは夫婦や医者と患者だったり、育種場の子育てなど限られていた。
そのため、ベイリはクロリッサに常に数メートル以上距離を置くように注意された。

リケインがロボット工学のジョサンと何やら研究をしていた。
もっと精神的に安定した子供を作る技術や未受精の精子を保存しておく技術などか？
外で遊ぶ5歳～8歳の子供たちを見に行くが、ベイリは危うく毒矢に当たるところだった。
ロボットが弓矢うまい子供にベイリは地球人と教え、毒のついた灰色の矢を渡したことを白状するが、だれの企みかは分からなかった。
ベイリはジョサンと映像で話すことにする。
ベイリはロボット2体に人間の安全を脅かさない命令を下して人間に危害を加えることも可能、という第一原則の穴をリービッグ博士に語る。
グルアーの毒殺未遂はそれによって行われたと推理する。
ジョサンはよくグレディアと映像で会い、ロボット工学について話した。
そしてリービッグ博士はグレディアは夫を憎んでいた、という。

ベイリはグレディアに直接会う。
彼女は自分の色相空間アートを見せ、ベイリを外に連れ出す。
グレディアは夫に対して口論していたという。
そして気がついたら夫は死んでいて、何があったのか記憶がない、と。
日暮れの太陽を見ていたベイリは気を失なう。

ベイリを助けたのは、オリボーだった。
グレディアが捜査本部に映像電話して来たとき、彼女にロボットたちにベイリを探させ、その隙に脱出出来たという。

オリボーはリケイン殺しはグレディアで、狂気は彼女が倒れた時身体の下にあった凶器で、それは医師が隠した、という。
そしてその医師スール老人は実はグレディアの実の父親だという。

ベイリは関係者みんなを映像電話会議で集めることにする。
そして犯人はリービッグ博士だという。
動機は一つはグレディアに恋をしてしまったこと、もうひとつはリケインに陰謀に気付かれてしまったこと、という。

凶器は取り外し可能なロボットの腕だった。

自身を映像で眺めていると思わせ、実際にリケインに近付き、ロボットに「腕を貸せ」と命令してその腕で撲殺したという。

陰謀とは他の宇宙国家と戦うために、陽電子頭脳を宇宙戦艦に搭載することだという。

普通のロボットを戦艦に乗せて、攻撃命令を出すと、敵戦艦に人間が乗っている場合、躊躇してしまう。

オリボーがリービッグ博士宅に踏み込むが、彼は人間と見合うことを拒否し自殺してしまった。

グレディアはオリボーの助けでオーロラに移住することにする。

地球に帰還したベイリはミニムに、報告をする。

ミニムはリービッグを殺人犯として直接撲殺したグレディアをオーロラに逃がした理由を訊く。

リービッグはグレディアが夫リケインに怒って興奮した時を狙って、腕を外して差し出すロボットを近づけ、グレディアが心神喪失の状態でリケインを撲殺するよう仕掛けたのだった。

ベイリはグレディアはもう十分、夫にもリービッグにも虐げられ苦しんだ、という。

ソラリアの弱点は高度にロボット化されていて、人間同士のつき合い・仲間・協力関係が希薄になっていることにあるという。

社会数学の第一人者でさえ、教えてくれる人がいないで自身で編み出した。

美術も抽象になっている。

理想とされる社会は体外受精。

出産から死ぬまでお互いに隔絶された社会。

「人間対人間の相互作用が無くなれば、生きることの主たる興味が失われます。

大部分の知的価値も無くなります。

生きる理由の大部分無くなってしまいます。

人を眺めることは、人を見ることの代用になりません。」

「隔絶がただちに停滞を導くには不十分だとしても、彼らには長命という問題があります。

地球では社会に絶え間なく若者が流入してます。

若者は変化をいといません。

ここではある種の最適条件が実現されていると思います。

地球では立派な仕事をやり遂げられるくらいには長く、若者の流入を妨げないくらいには短い。

さほど緩やかでない割合で世代の交代が進んでいます。

ところがソラリアではここに流れが遅すぎる」

「地球も孤立した状態で閉じこもっていないで宇宙に出て行くべきだ。

人類を外へ誘い出そうと高く掲げられたのろし火、輝き見下ろしている裸の太陽。

<メモ>

地球人

オーロラ人
ソラリア人
ネクソン人

地球上の旅客機には窓が無い。
ソラリアに旅客機には窓がある。

抽象的な芸術は、具体的な人間を排除しているのか？

イスラム教で偶像崇拝を重んじているのは、拝むのはひたすら唯一神アラーのみとしているのは
そういう発想から来ているのか？

SFは未来を語り、推理物は過去を語る。。。訳者あとがき。。。？

人口圧。
陽電子頭脳。

<疑問>

①そもそもなぜ高度進んだ宇宙国家のひとつソラリアの事件に、地球の刑事に捜査命令が下った
のか？

②人間の交流がモニターを通じて眺め合う事を主とすることを常識とした生活、社会などあり得
るか？

③生活支援ロボットや工場用・医療用ロボットなどに労働ロボットなどには、ロボット三原則の
適用はいいが、現在では殺傷兵器としてのドローンもあり、その制御は人間によるプログラミング
次第である。

アシモフは兵器としてのロボットはどう考えていたのか？